

議員全員で構成している議会改革特別委員会（井田一則委員長）は、去る7月19日から20日までの2日間、北海道の町村議会では、議会改革の先進地として視察者が絶えない胆振管内の白老町議会と十勝管内の芽室町議会を訪問し、議会改革の取り組みや現状などについて、研修してきました。

「開かれた議会・信頼される議会」

を目指して

～白老町議会～

白老町は北海道の南西部に位置し、登別市、千歳市、伊達市、苫小牧市に隣接している。

町の面積は425平方キ、人口は約1万7500人、スケソウグラの産地で日本製紙の工場があり、白老牛が有名、また、アイヌ民族が多く、2020年の東京五輪までに国立アイヌ民族博物館の建設が予定されている。

【白老町議会 定数14人】

アイヌ語で「イランカラプテ（こんには）」と笑顔で迎えてくれた吉田和子議会運営委員長をはじめ、山田和子同委員会副委員長と、高橋裕明事務局長の3人から詳しい説明を受けた。（山本浩平議長は、公務のため欠席）

【議会改革のはじまり】

平成8年、病気のため長期欠席する議員に対して、報酬を全額支給されていたことに、町民から批判を浴びるが、報酬減額は制度化されていなかったことから、民間委員10人をつくる行政改革推進委員会を設立、同年10月より、180日を超えて欠席している議員は

1年間、報酬を25%カットすることを全国で初めて制度化した。平成9年4月には69項目の具体的な改革案の答申を受けた。

【一般質問】

平成14年から一問一答方式を採用、質問者の持ち時間45分（答弁を除く）

【議会報告会等】

議会報告会は平成15年から開催し始め、現在は町内8～9カ所で行っている。また、委員会の地域別開催や議員の出前トークも行っている。

【議会基本条例】

平成17年、町が「自治基本条例」の制定に着手するのを契機に、議会全員による特別委員会を設置、議会関係の条項案を策定し、平成18年12月、町民・議会・行政の役割等が一体となった自治基本条例が制定された。

「住民に開かれ、分かりやすく、行動する議会」を目指して

～芽室町議会～



【芽室町議会 定数16人】

柴田正博副議長から歓迎挨拶の後、中野武彦総務経済常任委員長、早苗豊議会運営委員長、仲野裕司事務局長の3人から詳しい説明を受けた。（広瀬重雄議長は、公務のため欠席）

【議会改革のはじまり】

平成12年に「地方分権一括法」が施行、平成の市町村合併でのまちの将来をどうするか等の議論があり、同年「議会活性化計画」を策定したのがはじまりとなる。

【一般質問】

平成12年から一問一答方式を採用、質問者の持ち時間90分（質問・答弁の合計）

【議会報告会等】

平成22年から町民との意見交換会を開催し、平成26年からは老人クラブなどの各団体との意見交換会も行っている。

【議会基本条例】

平成19年4月に制定された町の自治基本条例に議会条文を盛り込んだが、平成25年4月に議会基本条例を施行した。

【タブレットの導入】

平成28年5月から、全議員にタブレット端末を配付し、（道内初の試み）全ての議案をタブレットに入れ、紙をなくすような方向を目指している。



【まとめ】

白老町・芽室町の両議会を視察して、共通していたのは、町民の方々から、いろいろな意見や声を聴くため、議員が出向き、各団体との意見交換や出前トーク、議会モニター制度など「町民に寄り添った議会」だということである。先進地の事例を参考に、共和町にふさわしい議会改革を目指したい。